

中小規模の工務店・リフォーム会社の 組織づくり

社員手帳のすすめ

会社の約束事を 手帳で共有する

「組織は、男女、年齢、生活環境など、さまざまな人間の集まりです。これらを束ねようとする、共通言語が必要になってきます。その共通言語を集約したのが、社員手帳です」と話すのは、福岡県北九州市で工務店を営むゼムケンサービスの籠田淳子社長。社員9名のうち5名が女性。2年前に女性建築デザインチーム（JKDT）を発足し、女性視点を強みに、住宅のほか、店舗デザインや施設建築の設計・施工を手掛けている。

そんな同社が社員手帳をつくり始めたのは、2006年。

「最初は、社内の約束事や緊急時の対応などをまとめていました。それをより使いやすいようにとスケジュール帳に発展させたのです」。実際に、新入社員やパートナーさんには手帳を携帯して読み込んでもらうことで、同じことを何度も説明したり、注意したりしなくて済む。「手帳の〇〇ページを見

ておいて、とえばよいので、精神的な負担も減りました」と籠田社長は、その効果を実感している。

必要なのは10年の 目標をもつこと

手帳は、毎年、社員が意見を出し合って構成を決めている。経営理念やビジネスマナー、建築の法改正知識、カラーコーディネート術など実際の仕事に役立つ情報が盛り込まれているが、それを抜いて社員全員が声を揃えて「必要！」と答えるのが、「10年ビジョン」のページである。

「10年ビジョンは、社員の目標を明確化するために始めました。社員全員が目標を達成するための行動計画を構築し、それを分析評価できるようにしてほしい」と思いました。ビジョンアプローチという言葉がありますが、10年ビジョン、5年ビジョンをまとめるとおのずと1年のビジョンも見えてきます。すると、その年の仕事の仕方がイメージできるわけです。社員全員がその年の仕事の仕方を

イメージできていることは、生産性や質の向上といった点で会社には大きなメリットになります」

同社は、毎年、年の始めに10年ビジョン発表会を行っている。そこで社員どうし、その方向性を共有し、理解を深め、仲間意識を高めているのだという。同じ手帳をもつことは、同じ方向を向いているかどうかを確認することにもなっているようだ。

手帳が働きやすい 環境をつくる

「大切なのは、それを自分の手で書いておくということです。仕事って、楽しいことは意外と少なく、つらいことやたいへんなことのほうが多い。それにひるまな

いために、何のために働くのか、という原点にいつでも立ち戻ることができると、それが励みになったり、自分を古い立たせることができるものです」。

ゼムケンサービスの社

ゼムケンサービスの設計リーダー・西村恵理さんの10年ビジョン。「手帳には、仕事で教えてもらったことなど何でも書きこみます。1冊1冊が私の歴史になっています」



員手帳は、男女がともに働きやすい環境づくりに貢献しているとして北九州市ワークライフバランス表彰で2009年（個人）、2011年（企業）に市長賞を受賞している。今では、企業から依頼を受けて社員手帳をつくったり、ワークライフバランス手帳として一般に販売もしている。

このたび本誌では、同社の協力を得てその一部をオリジナルカレンダー手帳として制作した（左頁）。まずは最初のページにある10年ビジョンの書き込みに挑戦してほしい。言うほど簡単ではないが、仕事と人生を原点に返って考えるいい機会になるにちがいない。

自分を大切にできない人は、お客さんも仲間も大切にできない。
自分を大切にするためには、日々の業務や時間に追われてはいけない。
自分に向き合う時間をつくる、それが手帳。ゼムケンサービス代表取締役 籠田淳子

2014
Calendar

仕事と自分を育てる住宅仕事手帳2014

Zm'ken × ビルダース

特別付録



1ヵ月、1年、10年単位で、仕事と自分の予定を立てましょう